

彦根城&湖東三山&京都紅葉巡り報告

【山行日】2025年 11月 28(金)~30(日)

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 36,000円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL:大西、伊藤シ、田崎

11月28日(金) 国宝「彦根城」から金剛輪寺・西明寺・百濟寺の湖東三山を巡り『恋都』に宿泊。

岩舟支所 P3:00=彦根城 9:00/10:20=金剛輪寺

10:30/12:10=西明寺 12:20/13:30=百濟寺

13:40/15:30=ペンション「恋都」17:00



朝3時に岩舟支所を出発し、彦根城までのロングドライブがスタートした。途中、新東名の岡崎 SAで朝食を摂り、名神高速道の彦根 IC で降りて彦根城の駐車場に車を止める。今回は9時に着いた

ので、入口の表門に一番近い駐車場に止めることが出来た。表門で入城券を購入しボランティアガイドを探すが、まだ時間が早く見当たらない。仕方がないので表門山道を登り始めると、O嬢が坂道で転倒し怪我をしてしまった。入口まで戻ってけがの手当てをし、彦根城博物館を先に見学することにする。博物館をゆっくり見学し、O嬢の怪我の痛みが癒えたら彦根城を見学する。彦根城は現存12天守の一つであり、その中の国宝5天守でもある歴史的に

価値がある城である。徳川四天王の一人井伊直政が初代城主であり、人気マスコットのヒコニヤンが住む城でもある。表門山道を登って行くと石垣と石垣の間に廊下橋が掛かり、彦根城のビューポイントの一つでもある。石段を登って行き廊下橋を渡って太鼓門から本丸の天守閣へと進む。天守は3階3重の屋根で構成されており、屋根は切妻破風や入母屋破風、唐破風を多様に配して、変化に富んだ美しい姿を見せている。靴を脱いで天守に上がり天守閣の構造や、城が持つ軍事面の機能等の説明を読みながら最上階まで登る。天守の最上階からの眺望は素晴らしく、内堀や中堀はもちろん琵琶湖や比叡山まで見渡せる。天守から下り西の丸から井戸曲輪と廻り、天守の裏側から石積みを見ながら黒門から出て楽々園と玄宮園を見学する。



玄宮楽々園は江戸時代に造られた彦根藩の下屋敷で、建築部分を楽々園と庭園部分を玄宮園と称し、国の名勝に指定されている。玄宮園を出て駐車場まで戻り、車に乗って湖東三山へ向かう。

湖東三山とは琵琶湖の東側、鈴鹿山脈の西山腹に位置する「西明寺」「金剛輪寺」「百濟寺」の三つの天台宗寺院の総称である。わずか7Kmの間にあり、「日本紅葉の名所百選」に選定されている関



西屈指の紅葉の名所である。彦根 IC から名神高速道に乗り湖東三山スマート IC が出て、真ん中に位置する金剛輪寺に向かった。金剛輪寺は聖武天皇の勅願寺として、行基菩薩が741年に開山した歴史あるお寺だ。創建当時は宿坊が百余立ち並ぶ大寺院であったが、1573年に信長の焼打ちにあったが、僧侶たちの機知により本堂、三重塔、二天門等が難を逃れたとの事で現存する。黒門をくぐり受付を済ませて、カエデの紅葉が美しい長い石畳の坂を登って行く。途中

の参道にはお地蔵様が並び、その奥に千躰地蔵が鎮座されている。重文の二天門をくぐり石段を登ると、紅葉に彩られた国宝の本堂に出る。本堂の脇に重文の三重塔が建ち、周りの紅葉とマッチ

してとても素晴らしい。近くにいたガイドさんの話では、「今年の紅葉は素晴らしくその中でも今日が一番綺麗だ」と言っていた。初めての2人は夢中でスマホで撮りまくっていた。本堂にお参りしたら来た道に戻り、途中の茶店でお蕎麦をいただき駐車場まで戻る。次の西明寺へは国道307号線まで戻り、北に向かって走ると10分足らずで西明寺に着く。西明寺は834年に三修上人が、仁明天皇の勅願により開創された寺院である。金剛輪寺同様信長の焼打ちにあったが、国宝の本堂と三重塔、重文の二天門が火難を免れ現存している。



総門をくぐると石畳の坂道を登って行き、参道両側のカエデの紅葉がとても美しい。中門から左の名勝庭園「蓬萊庭」に入ると、真っ赤なドウダンやカエデの紅葉が鮮やかだった。庭園の中から山道を登って行くと、国宝の本堂や三重塔が



建つ広場に出る。本堂に上がり下を眺めると、紅葉に彩られた三重塔や二天門が美しい。復路は反対側の山道を下り、中門手前で参道に出て往路を下るようになる。駐車場に戻ったら車に乗り、一番南に位置する百濟寺に向かう。国道307号線まで戻り、南に向かって走り左に山道を登って行くと百濟寺駐車場に着く。ここは山門前にお土産店が並び、揚げ饅頭の誘惑を振り切って境内へ向かう。百濟寺は聖徳太子の御願により、百濟人のために606年に創建された古刹だが、はっきりした史実は無く定かではない。鎌倉室町

時代は三百余の塔頭が並び、誠に荘厳な大寺院であったと記されている。

しかし幾度か火災に遭い、古建築物の多くを焼失し、現存する建物は1584年堀秀政により再建さ



れた以降のものである。本坊の喜見院は昭和15年に、移転改築されたものである。庭園は「天下遠望の名園」と称され、池泉回遊式の見事なパノラマ庭園である。その庭園を鑑賞しながら歩き、巨石や紅葉が織りなす庭園は実に見事であった。広場のベンチでおやつを食べてから、今宵の宿ペンション「恋都」に向かう。恋都は食事が出ないので、途中のスーパーダイエーで夕食を購入してからチェックインする。マスターご夫妻と再会し、近況をお話して宿泊の手続きを済ませる。入浴が済んだ

ら食堂に集まり、各自スーパーで買った夕食を食べる。今回参加のお二人はお酒が大好きで、お酒を飲みながら会話が弾むが、明日の京都一周トレイルに備えて早めに床に就いた。

11月24日(土) 銀閣寺近くの駐車場に車を置き、タクシーで伏見稲荷まで移動し、伏見稲荷四辻から京都一周トレイル東山コースを歩き、大文字山経由で銀閣寺まで縦走する。

「恋都」6:00＝吉野家 6:05/6:40＝伏見稲荷 8:10～四辻 8:40/8:50～清水山 10:40～蹴上 12:00/12:20 大文字山 14:10/14:20～大の字 14:25/14:35～銀閣寺 P15:30/15:40＝「恋都」17:30

今日は京都一周トレイル東山コースを伏見稲荷から歩き、大文字山を登って銀閣寺まで縦走する。



天気が心配で5時に起きて外を見るが、暗くて良く分からない。5:30からの天気予報を確認し、1日晴天の予報に安堵する。出発の準備をしたら食堂でコーヒーやお茶を飲み、車に乗って吉野家に行き朝食をいただく。朝食を食べたら銀閣寺近くのコインパーキングに車を止め、タクシーに乗って伏見稲荷神社に向かう。伏見稲荷神社の駐車場でタクシーを降り、伏見稲荷を参拝したら千本鳥居と呼ばれる厳かな雰囲気のパワースポットから出発する。朱塗りの鳥居が立ち並ぶ

参道は外国人に超人気で、早朝にもかかわらず大勢の外国人観光客が登って行く。初めての2人も感動で、スマホに収めながら楽しそうに登っていた。急な石段が続く。嬢はきつそうだったが、何とか四つ辻と呼ばれる展望が良い場所まで登りひと休み。京都の市街地を眺めながら菓子をいただき、息を整えたら左にトレイルコースへ進む。平坦な山道を進むと広い道になり、千本鳥居の茶店の方達がここまで車で登ってくる。要所要所に一周トレイルの標識が立ち、地図に記された標識の番号と合っているか確認しながら歩いて行く。



山道を下って沢を橋で渡ると住宅地を歩くようになり、個人の庭先の紅葉を楽しみながら進む。



やがて皇室ゆかりの寺「泉涌寺」の前を通り、右に折れて今熊野観音寺の参道を進むと紅葉がとても美しい。再び住宅街の中を通り、階段を登って左に進みやがて山道へ入って行く。植林帯と照葉樹の中を緩やかに登って行き、深山の趣がある山道をしばらく進む。やがて尾根から谷筋を下って行き、道路に出たらそのまま下り国道1号線を地下通路で渡る。渡ったら右に進むと急な石段を登りすぐに左の道路を進む。さらに右の山道を進むと清水山の分岐が有り、右に30mくらいで清水山山頂に着

く。分岐まで戻って休憩し、おやつを食べて水分を補給する。ここから尾根上を緩やかに下るが、尾根の左下に清水寺がある。尾根道を緩やかに下り、右に折り返すように進んで道路を渡り北側の山道を登り返すと明るい広場に出る。東山山頂公園でトイレがあり、トイレを済ませたらベンチで休憩しミカンをいただく。広い駐車場から左の山道を進み、將軍塚をトラバースして栗田山の西斜面を下ると尊勝院の境内を通り栗田神社の前に出る。参道を北に進むと三条通りに出て、ローソンで昼食をゲットする。蹴上の三差路からインクラインをトンネルでぐり、直ぐに右にインクラインに沿って登った公園のベンチでランチタイムとする。それぞれローソンで買ったおにぎりやサンドイッチをいただき、温かいお茶を飲んで疲れを癒す。ここで半分くらいの行程で、気合を入れて出発する。ここから左折して大神宮橋を渡り、日



向大神宮を目指して参道を登って行く。やがて鳥居が現れトレイルコースが2つに分かれ、東に進む当初のコースと神宮内を通って北に向かう後からのコースがある。もちろん日向大神宮を参拝するコースを進み、石段を登って日向神宮の内宮と外宮を参拝する。拝殿の左手から坂道を登ると天岩戸が右側に現れ、巻くように山道を進むと先ほど別れた道と合さる。七福思案処と呼ばれる峠で、五差路に道が交わる重要な場所である。東側に登る道を進み、ここからは本格的

な山道が続き体力を奪われる。それでも自然林の山道は紅葉が見られ、疲れた体を癒してくれる。大日山を越えてアップダウンを繰り返しながら稜線を進み、大文字四つ辻と呼ばれる場所まで来た。ここから京都一周トレイルを離れ、ほんの少し登ると大文字山山頂に出る。京都市街地が望めるビューポイントで、大勢の登山者が展望を楽しんでいた。

我々も展望が良いベンチで休憩し、ご褒美のブッセを食べて疲れを癒す。ここからは快適な尾根道を緩やかに下って行き、本日一番のビューポイント五山の送り火「大文字」に着く。



ここからの展望は素晴らしく、観光客も銀閣寺方面から登って来るので、外国人も大勢いた。穏やかな晴天に恵まれて暖かく、紅葉と展望を楽しみながらのんびり過ごせた。展望を楽しんだら下山開始し、銀閣寺に向かって急坂を下って行く。カエデの紅葉を楽しみながら下って行き、沢沿いの道になると緩やかな下りになり皆さんの顔にも余裕が出て来た。銀閣寺の前に出たが、時間が遅れているので見学は止めて駐車場へ向かう。駐車場に着き料金を支払うと、最大1200円と書いてあるのに

4500円取られた。良く見ると「土日は30分300円取ります」と小さく張り紙が下がっていた。

ここからダイエーに向かい夕食を購入し、ペンションに戻って夕食をいただく。ロングトレイルを歩き切った達成感でテンションが上がり、お酒も進んで反省会が大いに盛り上がった。

11月25日(日) 清水寺から八坂神社、円山公園を散策し、岡崎SAで買い物、静岡SAで昼食を食べ、早めに岩舟支所へ帰着する。

「恋都」6:00＝吉野家 6:05/6:40＝清水寺 7:00/8:00＝高台寺 8:05～八坂神社 8:20/8:40～円山公園 8:50/9:20＝岡崎 SA11:20/11:40＝静岡 SA13:00/13:40＝岩舟支所 P16:30

今日は午前中京都観光し、ランチを食べたら栃木に向かうので気が楽である。昨日と同じく吉野



家に行き、好きなものをオーダーし朝食をいただく。朝食が済んだら清水寺に向かい、手前のコインパーキングに車を止める。7:00でほぼ満車で、30分遅れたら車を止める場所がない。お土産屋が建ち並ぶ坂道を登って行き、清水寺入口左手にある善光寺堂を参拝する。仁王門前の狛犬で記念写真を撮り清水寺本堂に向かうが、O嬢は足が疲れ

ているので車に戻って待つと言う。3名で拝観券を購入し三重塔や西門を見ながら本堂へと向かう。清水寺は6時から拝観できるので、早朝から外国人観光客が大勢押し寄せてくる。特に中国人や韓国人観光客が多く、人波をかき分けて進まなければならない。清水の舞台に着くと明るくなってきて、紅葉が丁度見頃で素晴らしい。靴を脱いで本堂に上がり、奥の内々陣に奉祀された御本尊の千手観音を参拝する。ここから釈迦堂、阿弥陀堂、奥ノ院を巡り、奥ノ院の先の展望スポットから、紅葉と清水の舞台や本堂が素晴らしい。



大勢の観光客がスマホに収めており、我々も順番を待って絶景をカメラに収める。山道から右に戻るように折れて直ぐに子安堂への坂道が有り、2人は子安堂の三重塔まで登る。我輩はトイレで



待つことにして、2人が来たら音羽の滝で記念写真を撮る。ここから清水の舞台の下の道を進み、モミジの紅葉を見ながら仁王門に戻る。お土産屋はまだ開店して無く、ようやく生八つ橋の店が1軒だけ開いていた。「元祖八ッ橋西尾為忠商店」で、注文してから手作りされるこだわりの八ッ橋である。お土産をオーダーして、待つ間にお茶とのセットを300円で楽しめる。出来立ての生八つ橋は美味で、温かいお茶もとても美味しくいただいた。お土産をゲット出来たので車まで戻り、高台寺へと向かう。

直ぐに高台寺の駐車場に着き、拝観券を求めて行くと「拝観は9時からです」と言われ、隣の霊山観

音に行くと8:40からとの事である。拝観を諦めていつでも参拝できる八坂神社へ向かうことにする。八坂神社脇にある市営地下駐車場に車を止め、祇園祭でおなじみの八坂神社を参拝する。「祇園さん」と京都市民に親しまれており、本殿と拝殿が一つの屋根で覆われている「祇園造り」が独特の本殿である。参拝したらそのまま参道を進むと、円山公園の中に入って行く。円山公園は桜の名所として親しまれ、中央の「一重白彼岸桜」は枝振りが見事で京都市民に親しまれている。



カエデの木も植えてあり、紅葉も十分に楽しむことが出来た。車まで戻り運転手が「明るいうちに栃木に戻りたい」と言うので、ここから岩舟支所に向かうことにする。京都東ICから名神高速に入り、新名神から伊勢湾岸道、新東名と進んで岡崎 SA で休憩を取りランチタイム。ここからは往路を戻り、運転者の要望通り陽が落ちる前に無事岩舟支所に帰着した。